



TITLE:

計画1-5 丹後・丹波高原の野生ニホンザルの分布,ならびに複数群が集中的に分布する地域における群間関係の研究(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

伊谷, 原一; 黒田, 末寿; 高畑, 由起夫; 西原, 智昭; 早木, 仁成

CITATION:

伊谷, 原一 ...[et al]. 計画1-5 丹後・丹波高原の野生ニホンザルの分布,ならびに複数群が集中的に分布する地域における群間関係の研究(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1991, 21: 54-54

ISSUE DATE:

1991-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164278>

RIGHT:

今年度はアンケート法により広島県の野生ニホンザルの群れ（10頭以上の集団）、小集団（2～9頭の集団）とソリタリーの分布についての調査をした。また島根県および山口県で、アンケート法による調査の検討と群れ数の把握の試みおよび絶滅群の絶滅経過の調査をしてきた。結果および今後の調査要点は次の通りである。

アンケートの結果：広島県の群れ集中地域は、県の西端の佐伯郡、広島市の北側の高田郡と東端ノ神石郡から福山市の北にかけての3ヶ所であった。山口県と島根県の調査結果と同じく広島県においても、小集団およびソリタリーの分布は群れ集中地域外にも広がっていた。

アンケートの検討：島根県邑智郡は20年ほど前から猿害に悩まされてきた。対策として、サルの実態を把握するために、分布や頭数の調査が町村単位で行われてきた。したがって、昨年度のアンケートでは、詳細な回答があった。

群れ数の把握の試み：高校生を中心に昨年から引き続き山口県玖珂郡周辺を調査した。そこに、メスだけの安定したグループが生息していることが分かった。このグループは警戒心が強く、困難な追跡ではあるが継続調査をしている。

絶滅群：広島県では各所で、サルの群れが絶滅または絶滅寸前の状態にある。原因はいずれも捕獲によっていた。例えば、三原市周辺の数群が捕獲により絶滅した。

まとめ：群れ集中地域での群れ数を特定するために、聞き込み調査を試みたが、幾つかの問題があり、今後、一群一群を、テレメーター法等により現地調査することにした。

山口県、島根県と広島県の3県にかけておよそ3000km²の広域な群れ集中地域があった。

広島県内の群れ絶滅は最近のことであり、今ならば捕獲を実施した組織に群れの記録が残っているはずである。この記録の収拾をしたい。

計画1-5：

丹後・丹波高原の野生ニホンザルの分布、ならびに複数群が集中的に分布する地域における群間関係の研究

伊谷原一・黒田末寿・

高畑由起夫・西原智昭（京都大・理）

早木仁成（神戸学院大）

本調査では、京都府丹波・丹後高原の宮津、峰

山、舞鶴、綾部、福知山、園部、京北の各地方において、野生ニホンザル群の分布状況について聞き込み、および直接観察をおこなった。以下に、各地方における野生群の分布域と推定個体数を記す。

宮津：伊根町の権現山を中心に経ヶ岬から蒲入までの海岸道路沿いを遊動する約30頭の群れと、本庄浜から新井までの海岸沿いから西側の内陸部を遊動する25～30頭の群れが確認された。この他に、太鼓山周辺を遊動する30頭前後の群れが1つ分布するらしいが、先の2群との異同は未確認である。

峰山：丹後町の権現山西側の上山で1群確認されたが、これは伊根町の経ヶ岬周辺を遊動する群れと同群と思われる。また、同町の他地域から得られた聞き込み情報は、すべてがヒトリザルであった。

舞鶴：成生地区を中心に40～50頭、水ヶ浦を中心に約50頭の2群が隣接して分布する。また、西大浦から佐波賀にかけて30～40頭、朝来周辺に40～50頭、三国岳西側の多門院から与保呂にかけて40～50頭の計3群が分布する。

綾部：この地方の分布状況の詳細については不明な部分が多いが、故屋岡町を中心に南北12km、東西12kmの範囲に4群、約200頭が生息する。

福知山：烏ヶ岳を中心に遊動する25～30頭の群れが1つ確認された。烏帽子山の北側に1群分布するという情報があるが、未確認である。

園部：和知町・長老ヶ岳の西側を中心に遊動する45～50頭の群れが確認された。また聞き込み情報によると、隣接する日吉町の畑郷周辺と瑞穂町の兜山から西山周辺にかけて、それぞれ30～40頭と30頭前後の群れが1つづつある。

京北：京北町、および美山町では、1～4頭で遊動しているサルが頻繁に観察されたが、大きな群れは確認できなかった。また、聞き込み情報では、美山町の知見周辺と大野周辺にそれぞれ30頭前後の群れが1群づつ、美山鉾山の周辺に約20頭の群れが1つ分布するとのことである。

計画1-6：

近畿圏におけるニホンザルの分布の実態調査
—その2

清水聡・武田庄平・金澤忠博

（大阪大・人間科学）